

「布教に反対するムスリムはいるのか？」

@御徒町マスジドにおける 2018.3.2.金曜フタバ要約 by 杉本恭一郎

1) 布教（ダワー）は善行である

クルアーン 41 章 33 節いわく、「人びとをアッラーの御元に呼び、善行をなし、本当に私はムスリムです。というものほど美しい言葉を語る者があるうか」とアッラーは言われています。3 章 64 節いわく、「言いなさい。啓典の民よ。わたしたちとあなたがたとの間の共通のことばに来なさい。わたしたちはアッラーにだけ仕え、何ものをもかれに配しない。またわたしたちはアッラーを差し置いて、外のものを主として崇めない。それでもし、かれらが背き去るならば、言いなさい、わたしたちはムスリムであることを証言する」また 112 章 1-4 節いわく、「言いなさい、かれはアッラー、唯一なる御方であられる。アッラーは自存され、産まないし、産れたのではない。かれに比べ得る何ものもない」布教は善行であると同時に、多くのムスリム学者は、布教はムスリムの義務であるとさえ言っています。

2) 布教に反対するムスリムは偽信（ニファーク）の可能性はある

しかし布教に反対し批判するムスリムがいるのは、どうしたことでしょうか。クルアーン学者のムフティ・シャーフィ・ウスマーニによると、クルアーンとハディースとイジュマー（合意）によって確立されたイスラームの基本的な教義を拒否し、反対し、歪ませる、または批判する人は、偽信者（ムナーフィク）である（Maariful Qur'an, p.125）としています。だからアッラーと来世を信じていても、預言者ムハンマドを信じていない人は偽信者です。彼らは心に病気を持つ偽信者だとクルアーン 2 章 8-10 節に記されています。ムハンマドのスナの一部に反対し批判するムスリムは、偽信者の可能性があります。善を促進し、禁忌事項を禁止する人に反対し批判するムスリムは、偽信者の可能性があります。そして布教に反対し批判するムスリムは、偽信者の可能性があります。クルアーンとスナよりも文化を優先するムスリムは、偽信者の可能性があります。犠牲を伴うものであっても、ムスリムは自分自身に不正をしてはいけません。正義を行わなければいけません。

3) 布教に反対するムスリムは預言者伝を「犠牲の精神」から学んでいない

ムスリムであれば、クルアーンが何を言っているのか、ハディースが何を言っているのか分からなければ、非信者のようにむやみに批判したり、反対したりしてはいけません。偽信の問題は信仰心の弱さと犠牲の精神の欠如から来るのもですが、解決策としては、「預言者伝」の根底にある犠牲の精神を学ぶことがあります。また新しいムスリムの偽信については、継続的な教育支援が必要です。

預言者ムハンマドは人類最高のお手本であり、イスラームの歴史そのものです。彼は公に布教し、1 人 1 人個別に布教し、また皇帝や国王などにも布教の親書と共に使者を送りました。もちろん彼の人生は平坦なものではなく、むしろその逆で逆境の連続でした。だからこれを頭だけで学ぶ人は、イスラームを布教すると迫害に会い、苦難に会うことが予想できるので、その犠牲を嫌がり布教に反対するのです。真のムスリムが取るべき態度は全く逆で、布教は試練だと考えなくてはならないのです。布教を回避したいのであれば、非信者がたくさんいる国ではなく、たくさんムスリムがいる国で暮らすべきなのです。もしそれができなければ、最低限できることは、ムスリムは布教をしている人たちを決して批判し反対しないことです。布教に反対するのは偽信者であって、ムスリムではないのです。

クルアーン 2 章 256 節いわく「宗教には強制があってはならない。確かに正しい道は迷誤から明らかに（分別）されている」とあります。同時に布教は非信者に対する天国への吉報であり地獄への警告なのです。アッラーを信じない人たちの行ないは、「ちょうど暴風が吹き荒れる日の灰のようなもの」（14 章 18 節）です。かれらがこの世で稼いできたことは、何も役にも立たないのです。1 人でも多くの人に、地獄の火という大津波から自分を守ることができるように、来世に向けた「防災意識」を高めなければいけません。